様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	芸術系コース（美術） ／鈴木　久人

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

科学研究費補助金には絵画制作等の分野はなく申請自体おこなえない状態にある。そこで当面は大学改革の取組等で採択された研究に研究への協力や報告書の作成等で支援していきたい。ただし今後科学研究費補助金等に申請できる研究への発展を模索していきたい。

2．点検・評価

中間報告と同様である。科学研究費補助金等の申請題目を東京芸術大学等の国公立大学で調査してきたが、未だ本来の研究分野である絵画制作で申請できそうなヒントを与えてくれそうなものは無く、今後もそういった大学の研究者とも意見を交わし、申請できる研究内容を模索してみたい。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

学会等（所属団体の会合等も含む）の機会を使い，他大学の教員に学生の紹介を依頼する。また各大学院選抜試験願書提出期限前に知人の大学教員に個人名（鈴木）の手紙を同封し学生への周知を依頼する。

2．点検・評価

中間報告と同様であるが、実際に複数の教員と面会し，依頼文付の募集要項を知人の大学教員に送付した。中間報告で述べた3名の学生が実際に本学に入学し，絵画を専門分野としている。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

授業において積極的にデジタル機器を活用し，授業改善に努める。また基礎的能力を高め，併せて応用力を身につけるための教材開発をおこなう。
実技，演習科目では複数の提出物や出席状況など総合的な成績評価を確立する。絵画担当教員が退職するのにともない新たに担当する授業やこれまでは分担であった授業の内容を精査し，改善と構築をおこなう。
制作研究・生活を支援するためオフィスアワー以外での学生への声かけを積極的に行いう。学生が意欲的に制作研究に取り組むことができるよう，環境整備に努める。
また実技面など教科専門での教員採用試験の支援を積極的におこなう。

2．点検・評価

中間報告と同様である。授業において積極的にテレビモニター，デジタルプロジェクタ等，デジタル機器を活用し，授業改善に努めた。また基礎的能力を高め，併せて応用力を身につけるための教材開発をおこなった。
実技，演習科目では複数の提出物や出席状況など総合的な成績評価を心がけ，すべての担当授業で時間を取り，履修者に説明をした。単純に提出物の各学生間の比較ではなくその学生の取り組みを積極的に評価し、また学生にもそのことを開示した。
制作研究・生活を支援するためオフィスアワー以外での学生への声かけを積極的に行い，学生が意欲的に制作研究に取り組むことができるよう，環境整備に努めた。
教員採用試験の中の実技試験問題の分析をおこない，7,8回の模擬実技試験（1回3時間程度）をおこない，この模擬実技試験を受講した学生全員（3名）が教員採用試験で正規合格した。また過去の実技試験の問題等情報収集も引き続きおこなった。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

これまでどおりアクリル絵具，油絵具，和紙を中心材としたミクスト・メディアでの表現，具体的には和紙や布をマチエール材として使用することでその凹凸が単なるマチエールとしてではなく，主題の中心的形態としての成立についての研究をおこない，年間2度以上の発表をおこなう。

2．点検・評価

これまでの研究をより深化させ，目標・計画の2件の研究発表を行った。
国画会では会員を務め，関西国画会では委員を務め，それぞれの一般出品者の監査や研究発表のための運営を行った。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

積極的に各種委員会で活動し，大学運営を補助する。
大学院定員充足のための方策に協力する。

2．点検・評価

中間報告と同様である。大学院学校教育研究科入学試験委員会副委員長として積極的に大学運営に参加し，大学院定員充足の方策にも協力した。
大学院定員充足のため知人友人の研究者に本学大学院の募集要項を送付し，また複数の研究者に直接面談するなどし，学生の出願を依頼した。実際にその中から複数の出願があり、入学もしている。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

教育実践フィールド研究(大学院)，初等中等教科教育実践(学部)などの授業や附属学校園の研究会を通して附属学校との協力連携を強化する。
教育支援講師・アドバイザー等派遣事業などを通じて地域連携活動を強化していきたい。

2．点検・評価

中間報告後では阿南市図画工作部会主催市学童展審査会講師、鳴門市ウチノ海総合公園を育てる会主催児童画コンクール審査委員長、徳島県立近代美術館・徳島県立二十一世紀館主催チャレンジとくしま芸術祭展示部門審査委員等を務め、地域との連携に努めた。
教育実践フィールド研究(大学院)では附属中学校から出された現場の課題を一年かけて研究し，解決への道筋を提案することができた。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

中間報告と同様であるが、大学院学校教育研究科入学試験委員会副委員長として積極的に大学運営に参加し，大学院定員充足の方策にも協力した。
定員充足のため複数の教員と面会し，学生の紹介を依頼した。また多数の依頼文付の募集要項を知人の大学教員に送付した。そうした取組から私の知人の紹介で3名の入学者があった。
複数回の独自の模擬実技試験（1回3時間程度）をおこない，この模擬実技試験を受講した学生全員が教員採用試験で正規合格した。